

## 全校朝礼 校長講話要旨 平成 29 年 11 月 1 日

今年も残り二ヶ月です。つい先日まで暑い暑いと言っていたのに、今度は寒いと言っている自分の勝手さに呆れている。暑いと寒い方が良いと思うし、寒いと暑い方が良いと思うし、人間という生き物は本当に自分勝手な生き物だなあと思います。

今日は、最近思うことを三つ話したい。一つ目は交通事故、二つ目は選挙、三つ目は誠実さについてです。

まずは交通事故の話です。煽り運転が日本中で問題になっていた10月18日午後8時過ぎ、津山市の中国自動車道で、岡山大学教育学部4年生の女子学生がお母さんと横転したトレーラーにはねられて亡くなったのは知っているだろう。たまたま通りかかったところに大型トラックのスペアタイヤが落ちていて、それに乗り上げたので路肩に避難していたところ、同じくそのタイヤに乗り上げて横転したトレーラーにはねられてしまった。世には「運」というどうしようもない力が働くことがあるが、それにしても悲惨な事故だった。

その事故の翌日の夜11時半頃、岡山市で高校3年生3人が乗った車が中央分離帯を跳び越えて対向車線の車と正面衝突して全員亡くなってしまった。どうしてこんな時期に、しかもこんな時間に高校3年生がという疑問があるにせよ、本当に不幸な出来事だった。自分の教室に花が飾ってある机があることを想像するだけでもぞっとするはずだ。

そして、その事故の数時間後、早島町の国道2号線で大型トレーラーが中央分離帯を跳び越えて対向車線に飛び込んで大型トラックと正面衝突し、突っ込まれたほうの大型トラックの運転手さんが亡くなってしまった。僅か3日間で全国ニュースに流れるような大事故が岡山県で起こってしまった。

私はこれまで何度も、「道路上は1日の中で唯一命懸けの場所だ」と言ってきたが、そのことを実感を持って聞いてくれている人はほぼいないだろう。自分には何の落ち度がなくても、対向車線から車が飛んでくることがあるのです。自分のいい加減な運転が自分だけではなく、他の人の人生を奪ってしまうのです。大問題なのは、他人事にしか考えられないことです。

かつて、私が瀬戸高校で交通安全担当だった時、生徒を交通事故で亡くしました。自転車で登校中に道路を斜め横断しようとして、安全確認が不十分で車にはねられて亡くなりました。無念でした。自分の担当者としての指導が不十分だったのではないかと自分を責めて苦しみました。

昨年末に2、3年生には言いましたが、親に自分のお葬式をさせるのは最大の親不孝です。ましてや、自分のいい加減な行動で人の命を奪ってしまったら、償うことなどできない。死というのは不可逆なのです。たとえ刑務所に入っても、それは責任をとったことになるわけがない。失った命は帰ってこないのです。

道路は命懸けの場所であることを忘れてはいけません。

次に選挙について。先日の衆議院選挙には選挙権を持つ3年生の多くが投票に行ったと思う。どの候補に投票しようか、どの政党に投票しようかと考えたことだろう。1、2年生も遠い話ではない。来年、再来年にはここにいる総ての人が選挙権を持つことになるのです。

山陽新聞によると、今回の岡山県における18歳投票率は45%だったらしい。お隣の広島県は35%ほどだそうです。もっと詳しい年齢別投票率は発表されていないが、これまでの国政選挙では60歳代や70歳代の投票率はおよそ60~70%であり、20歳代は30%にも満たないのだ。分かりやすくいうと、年齢と投票率の数字はほぼ一緒ということだそうです。

高齢者の投票率が高くて若者の投票率が低いことがどういう結果を招くか分かっているだろうか。各政党とも沢山の票を入れてもらうには、投票率の高い層、すなわち高齢者が幸せになる施策ばかりに力を入れるのだ。高齢者のことばかりに力を入れる施策でいいのか。これから何十年も生きていく、そしてその間には就職もし、結婚し、家も建てるであろうし、子供を育てるであろう若者にとっての施策はほったらかしでいいのか。どんどん高齢者の人口比率が高くなれば、君たち若者の負担はどんどん大きくなるのだ。それでいいのか。

各政党は、沢山の票が欲しいから、投票率の高い年齢層に受けそうな施策ばかりを優先するのです。君たち若者の投票率が高くなれば、若者が嬉しい施策を考えますよ。自分が投票したって何も変わらないのではなく、投票率を上げることが自分たちが幸せになる道だということも考えて欲しい。

投票に行くにはしっかりと自分の意見を持たねばならない。今回は憲法の問題、原子力発電の問題、消費税の問題などが争点になった。自分が良ければ良いという考えだけで選んではならない。近江商人の「三方よし」で言えば、「売り手よし」だけではダメだ。「買ってよし」「世間よし」を考えること。今だけでなく、自分の子供や孫の代まで考えることが大切です。考えるためにはどうしても知識が必要です。だからこそ、高校での学習に真剣に取り組んで欲しいし、ニュースにもっと触れて欲しい。我々の時代とは違って、君たちはスマホという情報ツールを持っていて、新聞しかなかった時代とは雲泥の差なのです。

今回の中間考査はどうだっただろうか。先生方は工夫してくださって、君たちの意見や考えを答えさせる問題を多くのテストで出してくれた。みんなよく自分の意見や考えを書いていたという先生方の評価です。今後はより以上に授業やテストで意見を求められるだろう。その時にすぐに「わかりません」というのは「負け」であるし「逃げ」である。難しいことでも、何とか自分の考えを述べようと自分自身と戦うべし。君たちの成長を心から期待する。

最後に毎日の通勤での人間ウォッチングで感じていることを話す。

私は、路面電車の始発である東山電停から路面電車に乗って、岡山駅でJRに乗り換えて新倉敷駅まで来ている。

まずは路面電車と一緒にいる人。この人はきちんとした身なりで、毎日日本経済新聞を電車の中で読んでいるのだが、全く信号を守らない人だ。まずは東山電停には信号のある横断歩道を渡る必要があるのだが、彼は100%横断歩道ではない所を斜め横断する。そして、岡山駅前に着くと、どんなに多くの人を待たせても、かきわけてでも信号無視で渡って行く。その行動には全く迷いはなく、完全なる確信犯である。私はもしこの人と仕事の関係で付き合う必要があったとしても、絶対にこの人を信用することはない。

こんな人は、いくら日本経済新聞を読んで上手く儲けたとしても、きっと「売り手よし」だけの人間だと思う。人は見ていないようでよく見ている。もっと言えば評価している。表面上は仲良さそうに見えても、実は信用されていない可能性がある。人生の基本は本校の校訓にある「誠実さ」だと思う。「誠実さ」に欠ける人からは、次第に人が離れていくことを知ってお

いて欲しい。

次に JR で一緒になる人だ。この人は岡山駅で席に座る時に必ず通路側に座る人です。混んできても窓側に動くことは決してない。一度もない。趣味は悪いが、ちらっと覗いてみると、混んでくると荷物は膝に乗せるのだが、それでも動かない。「私は悪いことはしていませんよ。空けてますよ。」と言わんばかりです。誠実な人なら動くでしょう。完全なる確信犯です。もっと酷い人は、荷物を置いたままで寝たふりをしますが、そこまで厚かましくはないのだが、私にしたら、そっちの方が分かりやすいです。この人のように、中途半端な良心はかえって、その人を見にくくするものだと感じます。やっぱり「誠実さ」に欠けているんですよ。

「情けは人の為ならず」という諺があります。他人に対して誠実に親切に接することは、やがて自分にかえってくるのです。この人は、誠実に行動する気なら最初から窓際に座ればいいのです。隣に座られたくないのに、まるで言い訳がましくしているなんて恥ずかしい限りです。この人とも仕事の付き合いがあったら、絶対信用出来ない。こういう人を四字熟語で「厚顔無恥」というのです。

こんな風に毎日、人間ウォッチングしながら、電車に乗っています。人は知らず知らずのうちに見ず知らずの他人から評価を受けていることに気づいてください。

「誠実さ」ということならば、授業中に伏せている人は「誠実さ」に欠ける。人間ですから眠くなる。一生懸命聞こうとしても眠くなる時は眠くなる。それは仕方がないが、耐えようともせず、自ら伏せている者には「誠実さ」が感じられない。自ら眠るのならそこに居ないのと同じことだ。そんな人には厳しく対処するから覚悟しておきなさい。

そして3年生の進路決定者諸君、君たちがどれだけ誠実な人間なのか否かがこれからの日々ではっきりする。お世話になった先生方、まだまだ進路が決まっていない同級生に対して誠実な接してもらいたいし、行動して欲しい。

今日は「交通事故」、「選挙」、「誠実さ」について話しをさせてもらった。

残りの2学期、人間にとって一番大切な時間を無駄にしてしまったと反省しない日々にして欲しい。